

## 会話文の言語資料性

### The Characteristic as Language Data of Conversation Sentences

井 上 次 夫

Tsugio INOUE

キーワード：会話文、話しことば、言語資料、小説、シナリオ

#### 1. はじめに

話しことばの研究に際し、戯曲や小説の中の会話文を言語資料として用いることに慎重でなければならないことは既に指摘されて久しいところである(永野 1976、高崎 1981、大石 1987 他)。その後、話しことばの研究における言語資料は時代の進展、研究の進展に伴って戯曲、小説の中の会話文からテレビや映画のシナリオの中の会話文へと広がりを見せ(遠藤 1997、泉子・K・メイナード 2001 他)、近年は自然談話のデータを追究する立場から会話コーパス<sup>1)</sup>の利用が注目され盛んである。

本稿は、そのような流れを認めつつも、一口に会話文と一括されるものの性格が小説、映画、テレビドラマといった会話資料の違いに応じて異なるものであることを第一に実証しようとするものである。その上で、それらに出現する会話文は今後の話しことばの談話研究において活用できるか否か。もし、活用できるとすればどのような面において可能であるかについて考察しようとするものである。

#### 2. 話しことばと会話文

最初に、話しことばと会話文との関係について見ておこう。大石 1956 によれば、「話しことば」「書きことば」という用語の盛行は昭和時代に入ってからのもものと見られ、両者の区別の基準を三尾 1942 では文体の相違に求めている。以下、本稿での引用中の下線はいずれも引用者。

- (1) 文字に書きあらはされた言葉でも、小説のなかの会話の部分や脚本の会話の部分など、つまり話をそのまゝ文字に書きあらはしたものは、もちろん話言葉(かなり書言葉化されてはるますが)であります。また、文字に書きあらはされない言葉でも、たとへば演説などになると、ふつうの話言葉とはかなり違つてきて、書言葉に近いものになつてきます。演説にもよりますが、いはゆる演説口調といふのは書言葉に入れてよいものです。(三尾 1942: 15 頁)

演説口調は書きことばに属するとしている点から明らかなように、三尾 1942 は文章体を書きことばとし、談話体話しことばとする。すなわち、文体を基本的なものと考える立場であり、小説や脚本の中の会話部分については話しことばであると認めている。しかし、談話体とはそもそも音声を媒介とする言語(音声言語)に基づく概念であるところからすれば、談話体に比べて音声言語のほうがより基本的な概念であると言える。そこで、音声言語を基本的なものとする立場のものとして、話しことばは音声を媒介する表現・理解の行為形式だとする時枝 1951 の所論を挙げることができる。

このようなことから、大石 1956 では時枝 1951 に見られるような話しことばを音声言語であるとする立場に立ち、それまで漠然としていた話しことばの領域区分のために、(ア)音声原産か、文字原産(音声再生)か、(イ)即席か、なぞりか、(ウ)本来の意図(聞かせるつもりか、読ませるつもりか)の別という 3 つの観点を取り上げ、その組合せによって話しことばの領域を次の 4 つに分類した。

- ① 音声原産、即席の、本来聞かせるつもりのことば。  
……日常談話などがこれに属する。
- ② 音声原産、なぞりの、本来聞かせるつもりのことば。  
……重要の際の慎重な発言とか、形式的に決まった挨拶などがこれに属する。
- ③ 文字原産(音声再生)、なぞりの、本来聞かせるつもりのことば。  
……原稿による講演、式辞朗読などがこれに属する。
- ④ 文字原産(音声再生)、なぞりの、本来読ませるつもりのことば。  
……作品朗読などがこれに属する。

このうち、会話文の朗読や台詞としての実現などは上記④に含まれるとするが、会話文そのものはこれに含まれるものではなく、上記①の辺りのイミテーションである書きことばと大石 1987 は位置付ける。しかし、これには問題がある(5章参照)。

一方、畠 1987 は話しことばを音声による伝達を意図した発話であると定義し(書きことばは文字による伝達を意図した発話)、発話意図から発話までの時間的特性に基づく「冗長性」の程度によって話しことばを次の4つのタイプに分類している。

- I おしゃべり型……発話意図の形成から言語化、すなわち発話までほとんど時間的経過がないもの。冗長性が極めて高い。
- II 相談・打合せ型…予めトピックが一応決まっていて、伝達内容も多少は準備されているが、言語化そのものは即興で行われるもの。冗長性が高い。
- III 講演・講義型……かなり計画的で、時間をかけた発話であり、伝達内容は発話に先立って十分に時間をかけて決定され、訂正、追加もなされている。言語化はある程度は準備されているが、かなりの部分は即興的でもある。
- IV 青年の主張型……完全に準備された発話であり、言語化の即興性はほとんどない。

この分類では「冗長性」(又は即興性)が分類基準となっているために、会話文はタイプ I 又は II 辺りに属すると思われるが、この点は判然としない。

このように、話しことばと会話文とは必ずしも同義ではなく、明確でない部分も存在する。しかし、現在、一般には、話しことばは音声を媒介として表現や理解がなされる時に用いられる言語であり、音声言語・口頭語・口語とも言われ、文字を媒介として表現や理解がなされる時に用いられる言語である書きことば(文字言語・書記言語・文語)と概念上、対立するものとされている。

以上のようなことから、本稿においては、話しことばを談話文体とは捉えず音声言語として捉え、大石 1956 の「会話文は音声原産、即席の、本来聞かせるつもりのことば(話しことば)のイミテーションである書きことば」という立場にひとまず拠って、以下、会話文による話しことばのイミテーションの程度の違いを会話資料の種類の違いから明らかにすることを試みる。

### 3. 小説の中の会話文

小説の中の会話文を実際の話しことばとデータに基づいて比較し、考察したものとして高崎 1981 がある。高崎の意図は、両者の違いをよく見極めた上で、小説会話文を話しことばの研究に有効に使うことの可能性を探ることであった。対象とした会話資料は、小説が曾野綾子『夫婦の情景』(1979、新潮社)、実際の話しことばとしては、雑誌『言語生活』(1979、4、筑摩書房)の「録音器」コーナーでの「ツーンジャックの遊び方」、『講座言語、第3巻 言語と行動』(南不二男編、大修館)に掲載された資料「服地買い」と「モーニング買い」の3種である。小説『夫婦の情景』は、コント風の短編集で、夫婦・親子・会社の同僚・近隣の人々の会話が多く見られること、話線の起伏が激しくなく、出てくる場面も概して日常的であること、当時の近刊であることなどから対象資料として妥当であると思われる一方、実際の話しことばとしての対象資料の3種が果たして自然談話と言えるか否かについては現在の研究水準からすれば問題もあるだろう。

会話文の言語資料性

うが、当時の状況からすればやむを得まいと思われるのであり、同時にまた、実際の話しことばと小説の中の会話文との比較という観点からすればその目的は十分に達成できるものであると思われるのである。

さて、表1は高崎1981に示されている、話しことばと小説会話文との比較の表である。表1には、1.指示語(コノ、コウ、コンナなどの連体詞、副詞、形容動詞や指示代名詞からなる、いわゆるコソアドの体系をなす語)の語数・出現率、2.接続詞の語数・出現率、3.文の平均的長さ(1文の平均文節数)、4.最終文末の品詞の種類(4点についてそれぞれ数値化して示し、比較の拠りどころとしている。なお、話しことばの総自立語数が1951であったため、小説会話文においても同じ自立語数を冒頭から数えてそろえたという。また、1.指示語と2.接続詞の各出現率はこの自立語数1951を分母として算出してあるとのことである。

以下、表1について高崎1981に従いながら、順次、その概略を見ておく。

### 3.1 指示語

指示語の多用が目される。話しことば資料には小説会話文より指示語が多く用いられており、実際の話しことばを反映しているものと考えられる。なお、この表には示されていないが、高崎1981によると、コソアド系指示語のうち、話しことばにはコ系指示語の使用の割合が67.3%と高く、小説会話文にはソ系指示語の使用の割合が55.7%と高いという結果が示されている(後出表5参照)。

### 3.2 接続詞

接続詞の出現率は高くなく、両者にそれほど差はないが、話しことばでは漠然とした軽いつながり、間を持たせるためのつなぎ、前置きのような使い方の順接が多いのに対し、小説会話文では話線の展開、登場人物の性格や考え方の規定などの必要から、逆接の接続詞が多くなるという差が見られると分析されている。

表1 話しことばと小説会話文

		話しことば	小説会話文
1 指示語	語数	196	122
	出現率	(10.1%)	(6.3%)
2 接続詞	語数	53	37
	出現率	(2.7%)	(1.9%)
	順接	38	12
	逆接	6	19
	その他	9	6
3 平均文長	文数	618	406
	平均文節数	(3.16)	(4.84)
4 最終文末	終助詞	196 (31.7%)	260 (64.0%)
	助詞(終助詞を除く)	97 (15.7%)	39 (9.6%)
	感動詞	114 (18.5%)	10 (2.5%)
	助動詞	94 (15.2%)	59 (14.5%)
	名詞	39 (6.3%)	10 (2.5%)
	動詞	23	7
	補助動詞	9	4
	形容詞	22	5
	副詞	20	2
	形容動詞	7	2
	接続詞	3	4
その他	4	4	

### 3.3 文の平均的長さ

話しことばにおける文の規定は実際の作業上、困難を伴うものであるが、独立語文の多いことが話しことばの特徴の1つであるため、文節を単位とする文の平均的長さを比較することが試みられている。そして、ここでは小説の会話文の方が話しことばの資料より、平均約1.5文節だけ長いという結果が出ている。これは、話しことばに「はい。」や「あー。」など感動詞だけで1文になっているものが多いことによると思われ、従って、小説の会話文が書きことば寄りであるとは速断できないとされる。

- (2) KM「あー。」  
 U 「えー。」  
 U 「きつくはないですね? どうでしょう?」  
 KM「きつくはない、うん。」  
 KM「うん?」  
 KF「え?」

(モーニング買い)

### 3.4 文末の品詞の種類

各文末にくる品詞の種類を調べると、まず小説会話文では終助詞で終わる場合が実際の話しことばの2倍強と多いのに対し、終助詞以外の助詞で終わる場合は小説会話文よりも実際の話しことばのほうが多い点が注目される。次に、それら助詞の種類について見ると、小説会話文ではやはり文末が終助詞の場合、その種類が多いの(14種)に対し、実際の話しことば資料では文末が終助詞以外の助詞の場合に、その助詞の種類が多く(18種)対照的である。次の表2・表3参照。

表2 終助詞

話しことば	小説会話文	
ね、か、よ、 な、の、わ、 や 7種	よ、ね、の、 わ、な、か、 さ、もの、 かしら	い、ぞ、ぜ、 な(禁止)、 や 14種

表3 終助詞以外の助詞

話しことば			小説会話文	
は、が、 から、 て、の、 で、も	と、ば、 とか、を けど、 に、ても	なんて、 まで、の で、か 18種	から、 て、に、 けど、の に、って	は、へ、 と、の、 たら、し 12種

つまり、小説会話文では終助詞の使われ方が話しことばよりも豊富で、これにより登場人物の発話意図を表現し分けようとしていると思われるのに対し、実際の話しことばでは終助詞の使われ方が割合単純であり、これはイントネーションや表情の助けがあること、省略や倒置が多いことなどから終助詞以外の助詞で文末を終えることが多くなっていると高崎1981では考えられている。

最後に、表1で感動詞について見ると、話しことばでの使用が非常に目立っている。小説会話文では感動詞の種類が13種に過ぎないのに対し、話しことばでは「ソウソウ、ハイ、ア、ウン、シー、ハ、エツト、エー、アノー、アリガトウゴザイマス、シー、アレ、ウワ、へへ、フフフ」などむしろ「応答詞」とでも命名した方がふさわしいような語を含めて30種近く使用されている。これらは省略しても伝達には全く差し支えないものが多いのだが、その理由としては、それらが会話を運ぶためのきっかけや間合いを図って相手と心理的に近寄るために不可欠なものであるからだと考えられている。

高崎1981は、以上の検討の後、会話の内容面についての検討を加え、小説会話文に関して次のようにまとめている。

- (3) 小説の会話文とは、登場人物たちの言動の描写であるというよりは、さまざまの理由によって会話の形をとっている、地の文の部分の延長であると考えた方がよさそうである。実際の話しことばを、かなりの程度に模してはおり、事実、文長や文末の様相などにも、それは現れているのだが、それよりも、人物描写や筋の展開などの作者の意図の実現の方に重点がおかれていると思われる。(中略)小説会話文は、作者にとって「こうであろう」、「こうでありたい」といった、一種の典型的な会話の姿なのであり、「こうであった」、「こうである」といった再現をめざすものではないのである。(中略)小説会話文は、話しことばの材料として、そのまま生かすことは難しく、取り扱いに慎重を要するようと思われる。

小説会話文の虚構(フィクション)性については異論のないところであり、(3)のまとめに関しても穏当なものであると言えるだろう。ところが、それでは、小説会話文はどのように扱えば、どのように生かす

会話文の言語資料性

道があるのか。また、映画やテレビのシナリオの中の会話文も小説会話文と同様なのか。高崎1981で、実際の話しことばとして用いた資料3種はそれが文字化資料であること、人為的に録音したものであることなどから考えて自然談話として果たしてどこまで保証できるのか。以上のような問題に発展するのであるが、本稿では、映画とテレビのシナリオ会話文について小説会話文と話しことばとの位置関係についてのみ考察するものとし次章で検討する。

#### 4. シナリオの中の会話文

シナリオとは、映画又はテレビの脚本あるいは台本のことであり、舞台劇における戯曲に相当する。ここで取り上げるシナリオは、高崎1981における対象資料(1979年)との比較の関係上、同1979年の作品とし、入手できた任意のシナリオである。テレビのシナリオとしては同年にNHKテレビで放映された向田邦子『阿修羅のごとく』の中の「女正月」を取り上げ、映画シナリオとしては同年に上映された山田洋次『男はつらいよ・噂の寅次郎』を取り上げ、それぞれ冒頭から数えて総自立語数1951までの部分(歌の部分や夢の部分など一部を除く)を調査対象とした。

さて、テレビと映画のシナリオの会話文について筆者が行った今回の調査結果を、話しことばと小説会話文の表1に付け加えたのが表4である。以下の節で、順に、実際の話しことばとテレビ、映画、小説の各会話文の位置関係を見ていく。

表4 話しことば、テレビ、映画、小説の会話文

		話しことば	テレビ	映画	小説
1 指示語	語数	196	104	150	122
	出現率	(10.1%)	(5.3%)	(7.7%)	(6.3%)
2 接続詞	語数	53	18	29	37
	出現率	(2.7%)	(0.9%)	(1.5%)	(1.9%)
	順接	38	6	13	12
	逆接	6	7	13	19
	その他	9	5	3	6
3 平均文長	文数	618	553	470	406
	平均文節数	(3.16)	(3.53)	(4.13)	(4.84)
4 最終文末	終助詞	196 (31.7%)	266 (48.1%)	223 (47.4%)	260 (64.0%)
	助詞(終助詞を除く)	97 (15.7%)	63 (11.4%)	37 (7.9%)	39 (9.6%)
	感動詞	114 (18.5%)	31 (5.6%)	53 (11.3%)	10 (2.5%)
	助動詞	94 (15.2%)	78 (14.1%)	66 (14.0%)	59 (14.5%)
	名詞	39 (6.3%)	71 (12.8%)	31 (6.6%)	10 (2.5%)
	動詞	23	12	13	7
	補助動詞	9	2	8	4
	形容詞	22	18	11	5
	副詞	20	7	15	2
	形容動詞	7	4	4	2
	接続詞	3	1	6	4
	その他	4	0	3	4

##### 4.1 指示語

話しことばは、場面に依存する(ダイクティックな)傾向が強いことから、コレ、ソノ、アチラなどの指

示語が多用されることはよく知られており、表4においてもその出現率の最も高いことが確認される。ところが、次に出現率が高いものは映画であり、続いて小説、テレビの順である点についてはどう考えればよいのであろうか。そこで、今、映画について見ると、指示語は「男はつらいよ」において例えば(4)のように主人公の車寅次郎がお客を相手に商売をする場面で多用されているのであるが、一方、(5)のように我々の日常生活における場面に依存する実際の話しことばを映画の各場面でよく反映した結果であろうと思われる。

- (4) 寅「しかしこのお婆ちゃん、美人だねえ、昔は男を良く泣かしただろねえ、ちきしょうめ、私もね、日本国中ずうっと、商売で旅しています、けど、この町ほど美人の揃っているところは、初めでだ、こんな美人のいるところは、さ。もう、こうなったら、ただ、この電子バンドどう、ただよ只、ただしね、私がここまで来た、電車賃、とそれと……
- (5) 竜造「この工場にこれの主人が働いているんですよ」  
早苗「そうですか、あら、きれいなお花」

これに対し、小説、テレビのシナリオ会話文については、今回対象とした部分にそのような場面依存的な部分が少なかったのではあるが、一般に、会話文における指示語の多さは話しことばの反映として認めることができるものである。なお、高崎1981はコソアド系指示語のうち、話しことばにはコ系指示語使用の割合が高く、小説会話文にはソ系指示語使用の割合が高いという結果を示しているが、それに今回のシナリオ調査の結果を付け加えたものを表5に示す。

表5 コソアド系指示語の使用比率

	コ系	ソ系	ア系	ド系
話しことば	132 (67.3%)	39 (19.9%)	11 (5.6%)	14 (7.1%)
テレビ	29 (27.9%)	43 (41.3%)	14 (13.5%)	18 (17.3%)
映画	51 (34.2%)	59 (39.6%)	13 (8.7%)	27 (18.1%)
小説	12 (9.8%)	68 (55.7%)	27 (22.1%)	15 (12.3%)

この表によると、テレビ、映画のシナリオの会話文にはソ系が高い割合を示す点で小説会話文に近いけれども、コ系も比較的高い割合を示す点では話しことばに近く、全体として見るとシナリオの会話文は話しことばと小説会話文の中間に位置付けてよいだろう。

#### 4.2 接続詞

接続詞の出現率は表4に見られるとおりに非常に低く、それほど大差のないものである<sup>2)</sup>。しかし、高崎1981では話しことばにおける順接の多さ、小説における逆接の多さに注目し、その理由を分析していた。ここでのシナリオの会話文について見ると、いわゆる順接・逆接の接続詞はだいたい同程度に用いられており、特に偏りはないように思われる。ただし、いわゆる逆接の接続詞に分類される「しかし」の場合、実際の接続の機能から見ると、次例のように話を切り出したり間合いを取ったりする「つなぎ」役割のものが散見され、この点では話しことばに近いと思われる。

- (6) 勝又「興信所から来たら、言ってやりますよ、ほくは、ああいう女嫌いですね、自分の父親の素行調べさすなんて、女として許せないですよ」  
鷹男「しかし、娘としちゃほっとけんでしょ」 (テレビ・女正月)
- (7) 鷹一郎、苦笑している。  
寅「しかしいい人に会っちゃったなあ、助かったよ。今夜は温泉泊まりか。よおし、あったかいお風呂に入って、それからだ……」 (映画・男はつらいよ)

### 4.3 文の平均的長さ

話しことばにおける文の規定は時に困難な場合が出てくる。高崎 1981 は、記述されている句点をそのまま利用したとしているが、小説の場合には比較的困難が少なかったものと思われる。実際、今回のテレビのシナリオでも台詞が比較的短く、句点を文の指標として生かす方針でさほど不都合はなかった。しかし、映画のシナリオでは、その方針だけでは不都合が感じられ、便宜上、読点部分であっても終助詞や終止形、命令形などの場合には文と認める方針で対処せざるを得なかった。また、文節についても例えば次のような「どして(縮約形)」「じゃないだろう(融合形)」などで判断に迷うところがあり、本稿では次の(8)のように処理したが、省略や倒置、繰り返しなどにおいて文節認定の判断に全く問題がなかったわけではない。(8)の記号「|」は文節、「||」は文の句切れを表す。

- (8) a 咲子「それが|インケンだって|いうのよ、||どして|ジカに|いわないの」(6文節、2文)  
 b つね「そうだよ、||まだ|死んだって|決まった|訳じゃ|ないだろう」(6文節、2文)

以上のような困難はあるけれど、それらは、表4から全体の傾向を把握するにはさほど支障はないと考えられる。つまり、小説から映画、テレビ、話しことばの順に文の平均的長さは短くなっていき、シナリオの会話文は小説と話しことばの中間に位置付けられる点は動かないと思われる。実際、国立国語研究所報告8『談話語の実態』(1980)によれば、日常談話の文の長さの平均は次の(9)のようであり、表4でのシナリオの会話(テレビ3.53文節、映画4.13文節)が小説会話(4.84文節)と比べると日常談話(3.81文節)の側により近いものであることが確認される。

- (9) 日常談話 3.81文節<sup>3)</sup>  
 落語の会話 3.88文節  
 座談会 5.49文節

一方、水原 1999 はシナリオを作成する立場から、例外を認めながらも一般論としてテレビドラマより映画の方が台詞はさらに短くなると述べている。また、本稿で取り上げた資料については量的にも質的にもサンプルの域であり、おおよその傾向を探るに過ぎないのであるけれども、やはりここでのシナリオ会話文の位置付けに関しては重大な影響を与えないと考える。

### 4.4 文末の品詞の種類

話しことばの特徴として、品詞は感動詞、終助詞、接続助詞や間投助詞などの多いことが言われているが(後出(12)参照)、高崎 1981 は、それぞれの文末に限定してその品詞の種類を調査している。表4を見ると、終助詞の占める割合がテレビ及び映画のシナリオではほぼ50%、小説では64%と高率である<sup>4)</sup>。同時に、そこでは話しことばに比べて文末の終助詞の種類も多い。今、終助詞と終助詞以外の助詞の種類数についての表6を示す。

表6 文末の助詞の種類

文末に用いられている助詞の種類は、話し手の位相(性別、年代、社会的地位)、会話文の意味内容、話し手と聞き手の関係(上下、親疎)その他が影響する	話しことば	テレビ	映画	小説
終助詞	7種	11種	12種	14種
非終助詞	18種	18種	22種	12種
計	25種	29種	34種	26種

と思われるが、今はそれら全般にわたって検討する余裕がないので今後の課題としておく。

しかし、表6からは、テレビ及び映画のシナリオ会話の文末の助詞に関しては、終助詞の種類が少なく、終助詞以外の助詞の種類が多い点で、小説ではなく話しことばの場合に近い傾向が窺われる。これは、話しことばの場合に文を最後まで言い切らない、例えば次例(10)(11)のように省略や倒置、言いさしなどで

文が終わることの多い傾向を反映したものであると考えてよいだろう。

- (10) C「正直に?」  
 A「正直にですよ。」  
 E「スペードを。」  
 A「まあ、そうそう。持ってたらね。」  
 E「もし持ってたら。」  
 A「こういう風にもし持ってなかったら、何を出してもいいです。」 (ツーテンジャックの遊び方)
- (11) KM「合冬、相当ぶ厚いですか?」  
 U 「えー、従来の物よりもまだ薄手にはなっていますが、もっと従来の物ですと、もっと厚み  
が。」  
 KM「はー。」  
 KF「これは冬向きで。」  
 U 「はー冬で。」  
 KF「夏は?」  
 U 「夏でしたら、はい。」  
 KM「これが夏ね。」 (モーニング買い)

一方、終助詞の種類がシナリオ会話に少ないのは、話しことばの資料がツーテンジャックの遊び方、服地買い、モーニング買いの3場面であり、話し手が11人であるのに対し、テレビ資料の場合には30場面、16人の話し手、映画資料の場合は20場面、13人の話し手でありその場面、話し手の数がいずれも多く存在することによる違いではないかとも思われる。つまり、多様な場面で、多様な人々が多様な話題について発話する構成のシナリオの場合、その多様性のぶんだけ、終助詞を用いて最後まで言い切ることが少ない傾向のある実際の話しことばに近くなるのではなからうか。

## 5. 会話文の言語資料性

大石 1956 による話しことばの領域の4分類(2章参照)に従えば、本稿で対象としている会話資料の話しことばは①「音声原産、即席の、本来聞かせるつもりのことば」に該当し、テレビ・映画のシナリオ会話文は③「文字原産(音声再生)、なぞりの、本来聞かせるつもりのことば」、そして小説会話文は④「文字原産(音声再生)、なぞりの、本来読ませるつもりのことば」にそれぞれ該当するであろう。従って、大石 1987 において会話文を①のイミテーションとして位置付け、会話文の限界を指摘したことは、その位置付けにおいては妥当性を欠き、その限界の指摘においては妥当であったと言える。

表7 話しことばと各種会話文

	話しことば	テレビ会話文	映画会話文	小説会話文	
音声原産 +	++	—	—	— —	— 文字原産
即席 +	++	—	—	— —	— なぞり
聞かせる意図 +	++	++	++	— —	— 読ませる意図

(+、-はその要素がある。+、-の数は要素の強弱を表す。)

すなわち、一口に会話文と一括することは、小説会話文という作家による作品中における登場人物の造型、プロット展開における手段の要素を帯びた、しかも理想・典型としてあるべき話しことばという極点から、シナリオ会話文という小説会話文と同様のあり方にして、しかし実際の話しことばの要素(冗長性・聞かせる意図)を多分に含むことをむしろ意図した、そして、その点にて話しことばのイミテーシ



## 会話文の言語資料性

ンと言える極点までの幅広さと質的相違とを無視する結果となることに注意しなければならない。

また、次の(12)に示されるような音声言語としての話しことばの特徴のいくつか、例えば、①・⑨・⑩などは、会話文が文字原産である以上、必然的に捨象される運命にある。このことだけからしても、本質的に話しことばの談話研究は小説の会話文によってはできないことになる。

### (12) 話しことばの特徴

- ① アクセント・イントネーション・プロミネンス(卓立)・ポーズ(間)などが重要な機能を担う。
- ② 語彙は、和語、日常生活語となった漢語・外来語などが使用される。
- ③ 「アー／アノー」など、「つなぎことば」を多用する。
- ④ 「場」の影響を受けて、方言・女性語・隠語・学生語など位相語が出現しやすい。
- ⑤ 品詞は、感動詞、接続助詞、終助詞、間投助詞など、及び「コレ／ソノ／アチラ」などの指示語が多用され、格助詞のガヤヲは省略されることが多い。
- ⑥ 「ボカー(僕は)／アリヤ(あれは)／チャウ(てしまう)」などの融合形や「ダケド(だけれど)／知ッテル(知っている)」など縮約形が多用される。
- ⑦ 敬語が多用され、待遇表現が多い。
- ⑧ 会話文では短文が、「語り」では長すぎ文が多い。
- ⑨ 構文は単純なものが多用され、独立語文が多い。
- ⑩ 主語・述語など、場面や文脈で理解されるものは省略され、文の形として整わないものも許容される。
- ⑪ 即席で話されることにより、省略・倒置・繰り返しなどの不整表現が多く、会話などにおいても論理的な一貫性を欠く場合がある。(野村雅昭・小池清治『日本語事典』東京堂)

しかし一方で、語彙、文法形式など他の要素、例えば②・④・⑤・⑦・⑨などの研究においては小説会話文をその言語資料として用いることにさしたる支障は認められないのであり、シナリオ会話文においてもこの点、同様である。このことは、文法資料として、特に文法形式の豊かさという観点から文学作品についての調査を行った次の高橋 1987 の考察結果とも矛盾するものではない<sup>5)</sup>。

- (13) 小説は、文法の、どのカテゴリーについても、基本的なものを中心にして、だいたい全体に渡って、使用例が現れる。シナリオは、純粋に話しことば的な使用法の使用例(終助詞など)は豊富であるが、論理的につめる際の書きことば的な用法(後置詞など)や、あわせ文による連続的なできごとの積みあげにかかわる表現には弱いところがある(「したら」「すると」の過去など)。

そして、上の引用にもあるように、話しことばの終助詞研究においては、実際の話しことば資料の話しことばと比べて理想的あるいは典型的な話しことばが記されているシナリオや小説の中の会話文の方がむしろ良質の材料を豊富に提供するものであると考えられる。

## 6. おわりに

本稿では、テレビや映画のシナリオ会話文は、話しことばの特徴により見ると、実際の話しことばと小説の会話文との中間に位置するものであることを高崎 1981 に従いながらそれを発展させる形で示してきた。それぞれに用いた資料の言語資料としての適切性については新たな資料を追加してさらに検証を行う必要があるとも思われるが、今回の資料に限って見れば、会話文の言語資料性は、話しことばの文末形式、特に終助詞の質と量の両面に確認することができると言えるだろう。

なお、話しことばにおけるディスコース、同時発話、沈黙、あいづちなどの談話研究には会話コーバ

スが適しており、その研究目的にあった会話コーパスが正しく求められなければならないことは言うまでもない。一方、テレビと映画のシナリオの会話文の間の相違、また、話しことばの語彙面・文法面などの研究に際してはテレビ・映画のシナリオ会話文にはその可能性が開けているけれども、言語資料性という観点からの検討は次の課題としたい。

#### 注

- 1) 会話コーパスとは、基本的に会話の音声データとそれを文字化した書き起こしテキストから構成されるものであるが、必要に応じて韻律、統語、談話情報、非言語情報などのラベルが付与される。そして、言語学や音声学、心理学、音声工学など、さまざまな分野で行われる会話を対象とする研究を支えるものである(小磯 1999)。
- 2) 話しことば資料において接続詞の出現率が若干他より高いのは、トランプのゲームの説明場面及び品定めしながらの買物場面であったためであると思われる。
- 3) 大石 1980 によると、いっそう新しい調査では談話語の場合の平均は 3.24 文節とさらに短いという。
- 4) なお、『談話語の実態』(1980)によると、文の述語で終助詞を持つものは 73% と高い。
- 5) 小説は、会話文のみを対象としたものではなく、地の文も対象としている。

#### 参考文献

- 遠藤織枝(1997)「ドラマのことは—NHK「レイコの歯医者さん」をめぐって—」『日本語学』16 - 1
- 大石初太郎(1956)「話し言葉その研究」『国語学』24
- (1980)「話し言葉とは何か」『「ことば」シリーズ』12
- (1987)「近代・現代小説会話文の資料性」『国文学 解釈と鑑賞』52 - 7
- 小磯花絵(1999)「談話研究を支える会話コーパス—その作成と利用の仕方—」『日本語学』18 - 11
- 泉子・K・メイナード(1993)『会話分析』くろしお出版
- (2001)『恋するふたりの「感情言葉」—ドラマ表現の分析と日本語論—』くろしお出版
- 高崎みどり(1981)「小説の中の会話文について」『ことば』2
- 高橋太郎(1987)「文法資料としての文学作品」『国文学 解釈と鑑賞』53 - 7
- 時枝誠記(1951)「かきことば」『国語教育講座』刀江書院
- 永野 賢(1976)「会話文の言語的様相」『国語と国文学』45 - 6
- 畠 弘巳(1987)「話しことばの特徴—冗長性をめぐって—」『国文学 解釈と鑑賞』52 - 7
- 堀口純子(1997)『日本語教育と談話分析』くろしお出版
- ポリー・ザトラウスキー(1993)『日本語の談話の構造分析』くろしお出版
- 三尾 砂(1942)『話言葉の文法(言葉遺篇)』帝国教育会出版部
- 水原明人(1999)「作る談話・脚本制作の現場」『日本語学』18 - 11
- J. V. ネウストプニー、宮崎里司(2002)『言語研究の方法』くろしお出版

付記 本研究論文は平成 15 年度文部科学省派遣内地研究員として筑波大学大学院文芸・言語研究科において行った研究成果の一部である。

(いのうえつぎお inoue@oyama-ct.ac.jp)  
「受理年月日 2003 年 9 月 29 日」